白道のカミーノ便り

ミケランジェロ②

石見の恋歌に心揺れ？

美郷町に来た日にミケランジェロは、旧大和村に1軒しかないカラオケスナック「絆」に村人から招待され、大歓迎を受けた。

艶っぽい往年の姫軍団が歌う切ない石見の恋歌が心を激しく震わせたのだろうか、1年後にギリシャから来た第一報は「絆」への恋文だった。

大のお気に入りとなった美郷から、次の目的地であるバングラデシュに行くのはひと月後だったので、しばらくゆっくりできると喜んだ。

町内の風景を撮影するミケランジェロさん＝町提供

せっかくプロの写真家が滞在しているのだから、町の写真を撮ってもらってはどうか、と町役場に問い合わせた。田舎暮らしコーディネーターの藤原修治さんたちが素早く反応した。地域おこし協力隊員として町に来たばかりだった桑折久太郎君が、スペイン語圏のパラグアイで仕事をした経験があり英語もしゃべる。段取りと通訳を頼んだ。

ミケランジェロと久太郎君は役場の人の案内で連日、撮影の下見に出かけた。数日後、ミケランジェロは「今では、君より僕のほうが美郷のことを知ってるよ」と笑った。

ある日、東京のバングラデシュ大使館から、ビザの件で至急上京せよと連絡があった。手続きは済ませてきたはずで、メールで交渉したがらちがあかない。すぐに来なければビザは出せないという。

バングラデシュ行きは撮影の仕事だ。漂泊の旅のためにアメリカでの仕事はすべて整理したが、東京に住むフランス人のファッションデザイナーのための仕事だけは引き受けていた。（つづく）

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。